

尚美学園大学スポーツマネジメント研究紀要投稿ガイドライン

2022年6月21日改訂

2022年1月18日改訂

2021年1月26日制定

尚美学園大学メディア・紀要委員会

1. 投稿資格

単著、共著にかかわらず、論文の著者は本学の専任教員、非常勤講師であること。ただし、メディア・紀要委員会の審議を経て決定された者に関してはこの限りではない。なお、本学の大学院生は、指導教員との共著においてのみ投稿することができる。

2. 投稿条件

- ・投稿原稿は主にスポーツまたは本学スポーツマネジメント学部に関連する内容であること。
- ・投稿原稿は未発表のもので、かつ内容がオリジナルなものであること（ただし、学会や研究会などの発表はこれに含まれない）。
- ・文章、図版、画像、データなど投稿原稿を構成する全ての要素が、第三者の著作権・意匠権などの知的財産権を侵害していないこと。
- ・文献引用など著者オリジナルでない部分は、投稿原稿の30%を超えないこと。
- ・投稿原稿は、例外なくリポジトリで公開される。
- ・本紀要に掲載された論文の書誌情報および抄録は、国立研究開発法人科学技術振興機構が作成するデータベース（「JDreamIII」、「J-GLOBAL」）に収録される。

3. 投稿原稿の種類

投稿原稿の種類は、論文、研究ノート、翻訳、書評、資料紹介、報告とする。それ以外のものについては、メディア・紀要委員会の審議を必要とする。なお、投稿原稿は原則として日本語または英語とする。

(1) 論文

- ・論文は有用性のある独創的な内容を有し、研究の手続きに厳密性があり、議論で実証や反証、事例提示ができていないこと。
- ・国内外の先行研究が十分に検討されていること。
- ・量的研究を行った場合には統計的検定を行うことが望ましい。
- ・フィールドワーク・参与観察・実験などを実施した場合は、写真、録音、録画、実験結果の記録などが適正に保管・管理されていること。
- ・10,000文字（英文4,000語）以上であり、本文、参考文献、図版などを含みページ数はこの文字数に合わせる。

(2) 研究ノート

- ・研究ノートは、提示された知見に新鮮さがある、内容が公刊に値する資料的価値がある、問題提起として価値がある、事実発見として公刊の価値がある、の何れかの条件を満たしていること。
- ・量的研究を行った場合には統計的検定を行うことが望ましい。
- ・フィールドワーク・参与観察・実験などを実施した場合は、写真、録音、録画、実験結果のなど記録が適

正に保管・管理されていること。

- ・7,000文字（英文2,800語）以上であり、タイトル、要旨、キーワード、本文、図版、脚注、参考文献などを含みページ数はこの文字数に合わせることを。

(3) 翻訳

- ・過去に著者および第三者により翻訳されたことのない、外国語で記述された学術論文または学術書の翻訳であること。
- ・10,000文字（英文4,000語）以上であり、本文、図版、参考文献などを含みページ数はこの文字数に合わせることを。

(4) 書評、資料紹介、報告

- ・書評、資料紹介、報告は、内容に学術的価値があり、客観的な観点から書かれていること。
- ・5,000文字（英文2,000語）以上であり、本文、図版、参考文献などを含み6～10ページであること。

4. 投稿原稿の提出方法

- ・Wordファイル（.docまたは.docx）およびPDFファイルの両方を、メールに添付して提出すること。
- ・上記以外の形式での提出を希望する場合には、紀要担当委員に相談すること。

5. 体裁

- ・体裁は、原則として以下による。

序論（はじめに etc）

1.

1. 1.

1. 1. 1.

2.

2. 1.（以下略）

結論（むすび etc）

引用・参考文献

- ・先頭に下記を記載すること。
 - (1) 表題（副題を含む）および氏名（和文および英文（姓、名の順））。なお、英文表題（副題を含む）はキャピタライゼーションルールに基づき、文頭の単語および冠詞・接続詞・前置詞以外の単語の頭文字を大文字にする。
 - (2) 要旨（和文500字程度）およびAbstract（英文200語程度）。
 - (3) キーワードを4～5語（日本語および英語）付与すること。
- ・本文中の参考文献の記載方法は、①□□□□□□⁽¹⁾、②□□□□□□（山田 2010）、いずれかがかまわない。ただし、投稿原稿内において一貫性を持つこと。
- ・参考文献は、文末にまとめて記載する。
- ・参考文献の記載方法は以下のとおりとする。

(1) 雑誌（定期刊行物）の場合は、著者名（発行年）論文名・誌名、巻（号）：ページ。の順とする。

〔記載例〕

林田敏裕・清水紀宏（2021）青少年のスポーツライフキャリアが成人期のスポーツ実施頻度を与える影響：スポーツに対する意識・態度を媒介として。体育学研究，66：715-736.

Maxmen, A. (2018) Self-driving Car Dilemmas Reveal that Moral Choices are Not Universal. *Nature*, 562 (7728): 469-475.

- (2) 書籍の場合は、著者名（発行年）書名、発行所、引用ページ。（p.またはpp.）とする。なお、引用箇所が限定できない場合には、ページは省略する。

[記載例]

鶴原吉郎（2018）EVと自動運転. 岩波書店.

上林功（2021）I部スポーツ産業とは2章スポーツ施設産業. 原田宗彦編, スポーツ産業論第7版. 杏林書房, pp.18-28.

- (3) 翻訳書の場合は、著者名：翻訳者名（発行年）書名、発行所、ページ、とする。

- (4) 新聞記事の場合は、新聞社名（発行年）記事名、掲載年月日朝夕刊掲載紙面、地域版の場合は版名、とする。

- (5) WEBページの場合は、著者名（発行年）WEBページの題目、WEBサイトの名称、URL、（参照日）、とする。

6. 著作権

- ・掲載された論文等の著作権は著者に帰属する。本紀要に投稿された論文等が、第三者の権利等を侵害した場合、当該論文等の著作者が一切の責任を負うものとする。
- ・本紀要に掲載された論文（研究ノート、翻訳、書評、資料紹介、報告を含む）を、他に転載する場合には本紀要に掲載されている旨を明記しなくてはならない。

7. 提出先

尚美学園大学スポーツマネジメント学部メディア・紀要委員会 (sport-bulletin@s.shobi-u.ac.jp)

8. 査読

- ・投稿された原稿内容に関する査読は行わない。しかし投稿原稿が本ガイドラインを逸脱している場合、編集委員は掲載の再検討や原稿修正を依頼することができる。

9. 校正

- ・受理された投稿原稿の著者による校正は原則二校までとし、入校原稿全体の10%を超える修正は認められない。

10. その他

- (1) 提出後の論文の取り下げは認めない。
- (2) 投稿論文は、その採否にかかわらず返却しない。
- (3) 発表された紀要論文は、特段の事情がある場合を除き、電子化およびインターネットによる公開を許諾するものとする。
- (4) 論文の掲載順は、投稿原稿の種類ごとに、ファミリーネームのアルファベット順とする。